

P34

マツタケ菌糸体(マツマックス)の頭頸部がん患者への使用経験

Matsumax Treatment in Head and Neck Cancer Patients

○平田 章二

札幌平田口腔顎顔面外科がんヴィレッジ

We here describe the study of Matsumax Treatment in advanced head and neck cancer patients who orally received Matsumax to complement their immune function and QOL. Matsumax, as the adjuvant therapy of low-dose chemotherapy for advanced head and neck cancer, inhibited the degradation of the immune function and QOL.

【目的】

がん患者はがんの進行につれ、また抗がん治療によりがんに対する免疫能が低下する。免疫低下により、進行がん患者は、腫瘍が急速に増大し、QOLはますます低下する。また抗がん治療による免疫能の低下は、その後の再発、転移に大きくかかわってくる。そこで、今回マツマックスを飲用した進行頭頸部がん患者の免疫能とQOLを調べる機会を得たので、マツマックスのその有用性について検討した。

【対象】

マツマックスを飲用した手術不能頭頸部がん患者7名のうち、飲用前、飲用中、飲用後に採血を行い得た4名（咽頭癌、下顎顎骨中心癌、舌癌、頬粘膜癌）を対象とした。

【方法】

すべての患者に、低用量抗癌剤（CDDP+BLM）を行っている。

今回これに、マツマックスを3～6ヶ月間併用し、以下の項目についてマツマックスの有用性を検討した。

1. マツマックス飲用前、飲用中、飲用後の、患者より採血を行い以下の項目を調べた。
 - ①血算、②生化学、③腫瘍マーカー（SCC）、④免疫学的パラメーター（CD4/8, IL-6, 10, 12, IFN, SOD)
2. がん患者のQOLの変化；倦怠感、食欲、意欲、

【結果】

1. 採血による血算、生化学、腫瘍マーカー、免疫パラメーターの変化；
 - ①血算；大きな変化は見られなかった。
 - ②生化学；大きな変化は見られなかった。
 - ③腫瘍マーカー；2例で低下し、2例は変化がなかった。
 - ④免疫パラメーター；
 - ・CD4/8は3例で増加し、1例は変化がなかった。
 - ・SODは、2例で上昇した。
 - ・IL-6、10は、各1例で上昇した。
 - ・すべての症例でIFN- γ 、IL-12に変化は見られなかった。
2. QOL；いずれの症例も維持、改善された。

【結語】

以上より、低用量抗癌剤（CDDP+BLM）を行っている進行頭頸部癌患者がマツマックスを併用飲用した時、免疫能にプラス作用が働いていることが示唆された。それに伴い、QOLにもプラスに働きかけることが考えられた。